

## 平成 22 年度 第 2 回高梁市地域公共交通会議議事録（要約）

日時：平成 23 年 1 月 19 日（水）9：30～11：30

場所：高梁市文化交流会館 3 階 講座室

### 1. 開会

事務局：開会のあいさつ

安田会長が副市長を退任されたため、会長が不在となっている。  
年度内は松前副会長に会長代理をお願いする。

### 2. あいさつ

松前副会長あいさつ

近藤市長あいさつ

事務局：会議成立確認（過半数出席確認：委員 15 名中 12 人出席）

規定により会長に議事進行をお願いしたい。

### 3. 協議事項

#### (1) 平成 22 年と計画事業の経過について（事務局説明）

・「高梁市地域公共交通総合連携計画 22 年度計画実施状況」（資料 1 参照）

○委員：有漢ふれあいタクシーの利用が少ないのは、制度の周知ができていないことにあると思う。  
町内会長さんを通じて、また、防災無線等で広報したが、特に独居の高齢者の方などは、地区の集会等にもあまり出席されないため、伝わっていない。例えば、民生委員さんや福祉員さんなどが出向いてピンポイントできめ細やかに説明する必要がある。また、制度がスタートしたが、以前からの路線バスがあるため、住民にとっては選択肢が増えただけで、転換が進まないと思う。知り合いの高齢者は、ふれあいタクシーの運行がスタートしてもバス停まで電動カーで移動し、バスで通院していたが、この制度を説明し、数回利用されている。診療所からの午前の帰り便の増便などの検討も必要である。

○副会長：有漢ふれあいタクシーの利用に関して、意見はないか。

○委員：出発はダイヤどおりにしなければならないが、出発してからは、ある程度フリーに運行して、診療所からの帰りに対応したらよいのではないか。法的な問題はないのではないか。

○専門員（運輸支局）：手続きを踏めば変更可能であり、法的に問題ない。

○委員：接続の改善など工夫すればよくなるのではないか。

○委員：診療所での診察後にふれあいタクシーが空いていれば利用できるのか。

○事務局：現在、有漢ふれあいタクシーに関するアンケートを準備しており、問題点を把握し、ダイヤ等の見直し等を行うとともに、周知の方法も検討する。

○専門員（運輸支局）：周知の方法としては、各戸を廻ったり、高齢者の方の集会等へ出向いたりしての説明が必要であるとともに、利用者の方の口コミが大切である。また、有漢での取り組みが、高梁地域での突破口となるよう有漢地域の方には、ご尽力をお願いする。

- 事務局：周知に関して、玉川地区では予約方式の乗合タクシーのベースがあったとともに、説明会に実際の利用者の方が参加されていた。有漢は、町内会長を通じて説明し、利用対象者の方への説明ができていないため、利用対象者の方を対象に周知を図っていききたい。
- 専門員（岡山県）：有漢の利用状況において12月の利用者数が全部で6人に対して1便当りの利用者数が1.5人となっている。数字が納得できない。
- 事務局：1便当りの利用者数は、実際に運行した便数（車両）で割っているためである。
- 専門員（岡山県）：利用低迷の主因として有漢中心部に商業施設がないことが挙げられているが、そうであれば、改善しても利用があまり増えないのではないのか。
- 事務局：ふれあいタクシーだけではなく4条路線との関係から検討していく必要がある。高梁中心部への移動も視野に入れた検討が必要と思われる。
- 委員：有漢から真庭市北房地域への運行も可能か。
- 事務局：手続きを踏めば可能であるが、この会議で十分検討する必要がある。アンケート結果を踏まえて、検討資料を作成する。
- 委員：他地域でも定着には半年かかるため、利用が少ないのは分かるが、実績が下がっているのが気になる。また、利用登録者数が潜在利用者数の半分にも満たないことが問題である。先ず知ってもらうことが大切であり、1回体験していただくことも効果的である。また、地域の人たちにとって使いにくいという結果であると認識した上で、目的地やダイヤを再検討する必要がある。ダイヤを検討するに当たって、運行委託の契約はどうなっているのか。
- 事務局：契約内容は、全便が動くという前提で行っており、乗務員は、始発から最終便までの時間を拘束する内容となっている。委託先との協議が必要であるが、その時間内であれば、対応できると思う。
- 委員：ダイヤ改善等は、アンケートで調査すればよいが、登録者が少ないのは気になる。登録者数が少ないということは、乗らないという意思表示と捉えることもでき、地域での盛り上げも必要である。
- 副会長：他の地区でも共通したような問題があると思う。他に意見等は無いか。
- 委員：山陽新聞で交通弱者の問題が連載されている。高梁地域でも近い将来起こってくる問題であり、危機感を持っており、皆でよい知恵を出して欲しい。公共交通に対する助成金が国の仕分により、廃止されると聞いているが、来年度以降の事業はどうなるのか。
- 事務局：後ほど「その他」の事項で運輸局から説明してもらう予定である。
- 委員：有漢ふれあいタクシーの水曜日の利用が少ないのは、野村医院が水曜日休みであるためではないのか。
- 委員：運行日を月・水・金とするか、火・木・土とするか地域での協議した結果、月・水・金とした。
- 委員：ふれあいタクシーは、広域移動のために設定したはずであり、そのため、帰り便もバスに接続している。しかし、広域移動で何回も乗り継ぎするのが問題であり、直行できるものがあったらよいと思う。また、市中心部で循環線等へ乗換しなくてもよいように有漢からの路線バスが、目的地に直行することも考えられる。同様に地頭から高梁高校までの直行も考えられる。ふれあいタクシーは今後も広がっていくと思われ、今後、どのような範囲で運行していくのかを考える必要がある。また、計画そのものはスタートであり、もっと

大きな目線で考えていくほうがよいと思う。

○副会長：他に意見が無ければ、次の議題に移りたい。

(2) 平成 22 年度計画事業に係る事後評価について（事務局説明）

・「計画事業に係る事後評価記載様式（初年度・2 年度目）」「高梁市地域公共交通総合連携計画の概要（別紙 8-1）」「平成 22 年度高梁市地域公共交通会議計画事業の成果・評価（別紙 8-3）」（別紙 2 参照）

○副会長：事後評価に関して意見がなければ、承認とする。

(3) 次回会議日程について

○事務局：年度内にもう 1 回開催したいと考えている。審議内容は、今年度事業の見直し案と次年度事業のプランである。開催時期としては 2 月下旬を考えている。

○副会長：開催時期は 2 月下旬でよいか。なければ、2 月下旬で早急に日時を設定して欲しい。

4. その他

(1) 次年度の事業を支える予算について（村上専門員説明）

・「地域公共交通確保維持改善事業～生活交通サバイバル戦略～」（別紙 3 参照）

(2) 自由意見

○委員：デマンド型乗合タクシーだけでなく、交通機関に付加価値を付けていく必要がある。そのひとつとしてお年寄りの買物代行など、バスやタクシーが人だけでなくモノを運ぶことも検討する必要があると思う。

○副会長：われわれもいろいろなアイデアを出して、地域全体で取り組んでいく必要がある。

○委員：有漢での実証運行を成功させて市域全体に広げていってもらいたい。

5. 閉会

橋本委員あいさつ